

科目名	病理学（栄養士必修：NR・SA 必修）		
授業形態	講義	学年	2
開講時期	2021 年度 後期	単位数	2
担当教員	朝比奈 章悟		
内容および計画	<p>病理学総論では正常組織の構造・機能の知識を基盤として基本的な疾病の成因、機序、病態、経過と結果を解説する。更に病理学各論では臓器ごとの特徴的な疾患の病態を説明し、それぞれの疾患の理解を促す共に、その診断・治療・予防法の考え方の基礎を造る。</p> <p>総論の講義の流れは疾病の成因別に行われる。それぞれ代表的疾患・病態を挙げ、順次解説する。細胞・組織とその障害では変性と細胞死の概念、その原因と機序、並びに形態学的変化を述べ、循環障害では虚血、充血、うっ血の病態と引き起こされる細胞・組織の形態学的変化を知り、虚血の主な原因である血栓、塞栓、動脈硬化について理解を深める。炎症・免疫・創傷治癒の項ではそれぞれの概念と細胞・組織の形態学的変化、過程を述べ、更に膠原病、自己免疫疾患、免疫不全等の免疫異常による疾患について解説する。感染症については各種微生物の基本的性状、病原性とそれ等によって生じる病態、寄生体と宿主が織りなす現象と疾病との関わりについて述べ、また性行為感染症、院内感染症、新興・再興感染症の概念、病態について理解を深める。代謝異常症、老化は糖質、タンパク質、脂質及び無機質等の代謝障害によって生じる変化であるが、最近本邦で話題となっている肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症などについて述べ、理解出来るようにする。新生児の病理と先天異常は生まれた時に見いだされる疾患又は異常な状態であるが、その病態を素因や原因を含めて解説する。腫瘍は自己の細胞が自己の制御から逸脱して、自律性のある異常な増殖をおこした状態であるが、その原因、分類、病態について解説し、生命の危機の項ではバイタルサインについて説明する。</p> <p>各論の講義は臓器別に行われる。各臓器についての以下の如き代表的疾患を解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器系（虚血性心疾患、心内膜炎、心筋症、動脈瘤）</li> <li>・呼吸器系（気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、肺結核症、）</li> <li>・消化器系（う歯、口内炎、舌炎、食道・胃癌、胃十二指腸潰瘍、クローン病、潰瘍性大腸炎、腸閉塞、ヘルニア、肝炎、肝硬変、非アルコール性脂肪性肝疾患）</li> <li>・内分泌系（尿崩症、甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング病・症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫）</li> <li>・造血器系（貧血、出血性疾患、白血病）</li> <li>・腎・尿路系（急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症）</li> <li>・生殖器系・乳腺（前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮癌、卵巣嚢腫・腫瘍、乳腺症、乳癌）</li> <li>・神経系（脳ヘルニア、脳出血、脳梗塞 プリオン病、脳腫瘍）</li> <li>・運動器系（骨粗鬆症、骨軟化症、変形性関節症、骨腫瘍）</li> <li>・感覚器系（メニエール病、緑内障、白内障）</li> </ul>		
1	10月1日（金）	総論 ①病理学の領域 付	①病理診断検査
2	10月8日（金）	総論 ②細胞・組織とその障害 ③再生と修復	
3	10月15日（金）	総論 ④循環障害 各論 ①循環器系	
4	10月22日（金）	総論 ⑤炎症 ⑥免疫とアレルギー	
5	10月29日（金）	総論 ⑦感染症	
6	11月5日（金）	総論 ⑧代謝障害 ⑨老化と老年病	
7	11月12日（金）	総論 ⑩新生児の病理 ⑪先天異常	
8	11月19日（金）	総論 ⑫腫瘍	
9	11月26日（金）	総論 ⑬生命の危機	
10	12月3日（金）	各論 ②呼吸器系 ③歯・口腔系	
11	12月10日（金）	各論 ④消化器 ⑤内分泌系	
12	12月17日（金）	各論 ⑥造血器 ⑦腎・尿路系	
13	1月7日（金）	各論 ⑧生殖器・乳腺	
14	1月14日（金）	各論 ⑨脳・神経系論	
15	1月21日（金）	各論 ⑩運動器系 ⑪感覚器系	
教科書			
	タイトル	著者名	出版社
			ISBN
			発行年

カラーで学べる 病理学 第5版	渡辺照男	NOUVELLE HIROKAVVA	978481740756	2019
<p>基本的に教科書に沿って講義します。病理学は覚えることが多いので、教科書付録の整理ノートを上手に活用し、重要項目・ポイントの整理や確認・復習をこまめに行ってください。 よく理解して臨床栄養学へ発展させて欲しい。</p>				
参考書	特に指定しない			
<b>成績評価</b>				
評価方法				割合(%)
講義への出席				20
下記学習目標が達成されているか、筆記試験を実施(80点満点)				80
<p>筆記試験に関して、48点未満の者はレポート提出を課して、成績評価に加味します。 総合判定として60点以上を単位認定とします。</p>				
学習到達目標	<p>1) 総論では基本的病変の原因、機序、形態学的変化を理解する。 2) 各論では総論の知識を基礎に、各臓器ごとの主な疾患を理解し、個体全体の病理を把握する能力を習得する</p>			
先修条件				
実務経験				
その他				